



# 「平泉の文化遺産」のしおり

H21.7.1

「平泉の文化遺産」を世界遺産へ ～For World Heritage～

平泉とその周辺には、平安時代末期に奥州藤原氏が築いた「国宝中尊寺金色堂」や「特別名勝毛越寺庭園」に代表される仏教寺院や庭園など多くの遺跡や景観が現在まで守り伝えられています。この貴重な文化遺産は、平成22年2月までに、ユネスコに推薦書が提出され、平成23年に開催される世界遺産委員会で登録の可否が決定します。

しかし、「世界遺産ってどんなもの?」「平泉の文化遺産は、ほかの地域の史跡とどこが違うの?」と尋ねられても、すぐに答えられる人は意外に少ないのではないのでしょうか。

このしおりでは、「平泉の文化遺産」や「世界遺産」について、知っているのとちょっと得する豆知識を集めてみました。

平泉への旅行を計画している方や、お客様がいらっしゃったとき、お国自慢をしたいときなどの話題としてご活用ください。

岩手県生涯学習文化課 世界遺産担当  
[TEL]019-629-6177 / [FAX]019-629-6179  
[E-mail]DB0005@pref.iwate.jp  
[URL]http://www.pref.iwate.jp/hp0907/

### 1 「平泉の文化遺産」がなぜ世界遺産なのか

- 平泉には、浄土思想の考え方が反映された中尊寺などの仏教寺院や、毛越寺庭園などの浄土庭園があります。
- 当時の人々が思い描いている「浄土」として重要な意味を持っていた山や川などの自然もそのまままちづくりに活かされています。
- 寺院や庭園と周囲の自然が一体となって、現世における浄土世界(理想世界)が創り出されました。
- このような文化遺産は、世界的に見ても平泉以外にはありません。

### 2 「平泉の文化遺産」の評価

争いのない平和な理想郷(浄土)をめざした「平泉」

平泉は、「中尊寺建立供養願文」に記されているように、敵も味方も等しく死を悼み、奥州の地を現実の浄土にしたいという願いのもとに、中尊寺や毛越寺、無量光院などが造られ、様々な浄土の世界が再現されていきました。また、奥州藤原氏は、京都の中央政権と一定の距離を保ち、奥州一帯を半ば独立的に統治しました。

周囲の自然環境と一体になったまちづくり

平泉は、周囲の山や川など変化に富んだ自然地形を活かし、寺院・庭園・政庁などを要所に配置して発展的に形成されました。これは、周囲の自然も浄土の世界を構成する重要な要素と考え、浄土庭園の背景に自然の山を取り入れたり、東稲山に桜を植樹したりするなど、自然環境にも十分配慮されたものでした。



【無量光院の落日(復元CG)】



【東稲山の桜(復元CG)】

現在は、史跡の発掘調査と周辺の整備などが行われています。

金鶏山(きんけいさん)  
中尊寺と毛越寺のほぼ中間に位置し、まちづくりの基準となった山で、平泉を守るため雌雄一対の黄金の鶏を埋めたという伝説が残っています。山頂には歴代の藤原氏により経塚が設けられており、金鶏山が信仰の山として意識されていたことを示しています。

柳之御所遺跡(やなぎのごしょいせき)  
奥州藤原氏の政庁「平泉館」といわれているところです。12世紀の平泉遺跡群の中でも遺構、遺物がずば抜けて多く、高価な中国産の陶磁器や国産の陶器、宴会用の「かわらけ」などが発見され、奥州藤原氏の文化と経済力の高さをうかがわせるものです。

現在、史跡公園として整備中ですが、隣接する柳之御所資料館では、柳之御所遺跡から発掘された貴重な遺物を展示しています。

達谷窟(たつこのいわや)  
9世紀初頭に、征夷大将軍坂上田村麻呂が、蝦夷討伐の戦勝を記念して建てたと伝えられています。当時の幹線道だった「奥大道」沿いの交通の要衝に造られた寺院で、毘沙門堂の前面には浄土庭園も設けられています。また、毘沙門堂の西側の岩壁には磨崖仏が彫られています。

白鳥館遺跡(しろとりたていせき)  
蛇行する北上川に囲まれた地形から、北上川の要衝として河川交通の監視などを行っていたと考えられており、平泉の繁栄を支えた北上川利用の様相を示す遺跡です。奥州藤原氏に先行する安倍氏に係わる伝承を持ち、中世城館の特徴を良く表しています。

長者ヶ原廃寺跡(ちょうじゃがはらいせきあと)  
衣川の北岸流域に造営された寺院の跡で、仏教文化の形成が安倍氏の時代にすでに始まっていたことがうかがえます。続く平泉文化において浄土思想が隆盛する歴史的な背景を物語る寺院跡です。

骨寺村荘園遺跡と農村景観(ほねでらむらしょうえんいせきとのおそんけいかん)  
かつて骨寺村と呼ばれた一関市本寺地区は、中尊寺の荘園が営まれ

たところ。14世紀の絵図に描かれた中世の農村の基本的な土地利用形態と居住形態を彷彿とさせる農村の良好な文化的景観が現在に継承されています。



【「平泉の文化遺産」構成資産位置図】

### 7 もっと「平泉の文化遺産」を知ろう

平泉文化遺産センター( 0191-46-4012)  
奥州藤原氏四代を中心とした平泉文化の発展に関わる資料の収集・保存・調査・研究を行い、その成果をわかりやすく展示しています。  
(開館時間)9:00～17:00 (入館料)無料(休館日)年末年始、展示替期間  
柳之御所資料館( 0191-34-1001)  
柳之御所遺跡から発掘された印章や陶磁器、かわらけなどの貴重な出土品を展示しています。  
(開館時間)9:00～16:30 (入館料)無料 (休館日)毎週月曜、年末年始  
一関市博物館( 0191-29-3180)  
陸奥国骨寺村絵図(複製)や遺跡の地形模型などが展示されています。  
(開館時間)9:00～17:00 (休館日)毎週月曜、年末年始、  
(入館料)大人300円、大学高校生200円、小中学生100円  
一関市内の小中学生は無料

### 3 平泉と浄土思想

浄土思想とは、仏の世界である清浄化された浄土へと往生し、成仏することを説く仏教の思想で、仏の数だけ浄土があると考えられていました。11～12世紀頃には、死後に阿弥陀仏の住む西方極楽浄土への往生と、現世における自らの安穩も願うものへと変化していきました。

奥州藤原氏初代の藤原清衡は、前九年・後三年合戦の悲惨な経験から、中尊寺建立に当たり、「奥州での多くの戦いで亡くなったものすべての霊を敵味方の区別なく浄土へと導き、さらに自らも浄土へと往生したい」とする願文を読み上げました。(中尊寺建立供養願文)  
奥州藤原氏の浄土への往生の願いと、奥州における現実の世界を浄土とする願いは、12世紀の約100年間にわたって、様々な浄土の世界を具現化させる重要な伏線となりました。

### 4 ユネスコ憲章の精神と浄土思想

ユネスコ憲章には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」との理念が高らかに謳い上げられています。憲章に示された平和希求の精神は、まさしく藤原清衡をはじめ、奥州藤原氏が現世に実現しようとした浄土世界及びその基調になった浄土思想と共通するものだといえるでしょう。  
世界遺産候補である「平泉 - 浄土思想を基調とする文化的景観」には、平和を求める普遍的な精神が深く息づいています。

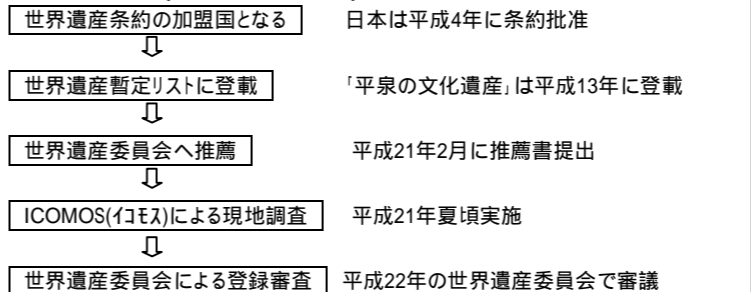
### 5 平泉が海外に与えた影響

13世紀の旅行記マルコ・ポーロの「東方見聞録」には、日本は黄金の島「チバング島」と記されており、大陸に大量に持ち込まれた奥州の金によって、産金国であるとの伝説を生み出しました。  
東方見聞録には、「この国では至る所に金が見つかる」、「国王の一大宮殿は、それこそ純金づくめで出来ている」との記載がありますが、これは日本の産金地奥州に存在した中尊寺金色堂に端を発したものと考えられています。

### 8 世界遺産ってなあに?

すばらしい自然や文化を、国や民族の区別無く、世界中の人々にとっての大切な宝物として守っていかうとする考え方により、昭和47年(1972年)のユネスコ総会で世界遺産条約が採択されました。この条約に基づいて作成された「世界遺産リスト」に登録された遺産を「世界遺産」といいます。  
主なものには、アンコール(カンボジア)、万里の長城(中国)、メンフィスとその墓地遺跡(ピラミッド)(エジプト)などがあります。

世界遺産は、次のように分類されます。(890件-H21.7現在)  
文化遺産(689件)  
すぐれた価値を持つ記念工作物、建築物群、遺跡(文化的景観を含む)。  
自然遺産(176件)  
鑑賞上、学術上、保存上すぐれた価値を持つ地形や生物、景色などを含む地域。  
複合遺産(25件)  
文化遺産と自然遺産の両方の価値を持つ遺産。  
世界遺産に登録されるためには、次のような手続きが必要になります(文化遺産の場合)。



その後、この東方見聞録に記された「チバング」伝説は、15世紀末以降、ヨーロッパ諸国が新たな土地と富を求めて世界的な航海活動を展開したいわゆる「大航海時代」の遠因ともなっていると考えられています。

### 6 「平泉の文化遺産」を構成する史跡等

中尊寺(ちゅうそんじ)  
初代清衡が12世紀初めから四半世紀をかけて造った寺院で、多宝塔や二階大堂など多くの堂塔が建てられました。14世紀にはそのほとんどを焼失しましたが、天治元年(1124年)に完成した金色堂をはじめ、現在も多くの国宝や重要文化財が守り伝えられています。  
特に国宝中尊寺金色堂は蒔絵・螺鈿など日本の漆芸・金工の粋を極めたもので、西方極楽浄土を再現した阿弥陀堂であるのみならず、今もなお奥州藤原氏三代のご遺体と四代の首級が納められています。

毛越寺(もうつうじ)  
二代基衡が12世紀中頃に造った寺院で、当時は堂塔40、禅房500の規模を誇り、金堂円隆寺は「吾朝無双」と評されていました。度重なる災禍により建物は消失してしまいましたが、建物跡がほぼ完全な形で保存され、大泉が池を中心とした浄土庭園は、四季折々の花々とともにまさに極楽浄土の世界を体感できます。

観自在王院跡(かんじざいおういんあと)  
毛越寺のとなりには、基衡夫人が建てたとされる観自在王院があり、阿弥陀堂や舞鶴が池を中心とした浄土庭園が設けられていました。現在は、庭園の復元整備が行われて史跡公園になっています。

無量光院跡(むりょうこういんあと)  
三代秀衡が12世紀後半に建てた寺院で、宇治の平等院鳳凰堂をモデルに造られましたが、規模としては一回り大きいものでした。しかし、建物は焼失し、現在は礎石と池跡などが残っているだけです。  
東門跡に立つと、中島と本堂が一直線に並び、その先には金鶏山が望めます。彼岸の頃本堂に向かうと、ちょうど背後の金鶏山に夕日が沈み、まさに西方極楽浄土の世界を体感できます。

### 9 国内の世界遺産

日本国内では、これまでに14件の遺産が登録されています。  
【文化遺産】  
法隆寺の仏教建造物(奈良県/1993年)  
姫路城(兵庫県/1993年)  
古都京都の文化財(京都府/1994年)  
白川郷・五箇山の合掌造り集落(岐阜県・富山県/1995年)  
原爆ドーム(広島県/1996年)  
厳島神社(広島県/1996年)  
古都奈良の文化財(奈良県/1998年)  
日光の社寺(栃木県/1999年)  
琉球王国のグスク及び関連遺跡群(沖縄県/2000年)  
紀伊山地の霊場と参詣道(和歌山県・三重県・奈良県/2004年)  
石見銀山遺跡とその文化的景観(島根県/2007年)  
【自然遺産】  
白神山地(秋田県・青森県/1993年)  
屋久島(鹿児島県/1993年)  
知床(北海道/2005年)

### 10 世界遺産暫定リスト

各国はこれから世界遺産に登録しようとするもののリストを作って、世界遺産委員会へ提出しなければなりません。これが暫定リストと呼ばれるものです。現在日本の暫定リストに登録されている代表的なものは以下のとおりです。  
「平泉の文化遺産」(岩手県)、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」(北海道・青森県・岩手県・秋田県)、「富岡製糸場と絹産業遺産群」(群馬県)、「国立西洋美術館本館」(東京都)、「古都鎌倉の寺院・神社ほか」(神奈川県)、「富士山」(静岡県・山梨県)、ほか計12件  
詳しくは、以下のホームページを御覧ください。  
・文化遺産ワライ: [http://bunka.nii.ac.jp/jp/world/h\\_10.html](http://bunka.nii.ac.jp/jp/world/h_10.html)